

# 令和5年度第10回 多摩市総合計画審議会会議録（要点録）

■開催日時 令和5年10月26日（木） 午後7時～午後8時30分

■開催場所 多摩市役所 特別会議室

■出席委員 14名（50順）

朝日 ちさと会長、宮本 太郎副会長、有賀 敏典委員、岩佐 玲子委員、小笠原 廣樹委員、  
尾中 信夫委員、勝田 淳二委員、紀 初子委員、澤登 早苗委員、高木 康裕委員、  
春田 祐子委員、福井 博文委員、細野 佳苗委員、鷲尾 和彦委員

■欠席委員1名（50音順）

田中 和則委員

■事務局

阿部市長、鈴木企画政策部長、小形企画課長、秋葉企画調整担当主査、池田主任、上川主任

■傍聴者 1名

■議事日程

開会

- 1 第8回及び第9回要点録の確認
- 2 審議会答申以降の経過について（報告）
- 3 その他

閉会

## 【開会】

出席委員数は 14 名であり、定足数に達しているため審議会は成立した。

(事務局より配布資料の確認)

## 【1 第 8 回及び第 9 回要点録の確認】

第 8 回及び第 9 回要点録（資料 73、74）の確認を行い、修正等なく了承された。

## 【2 審議会答申以降の経過について（報告）】

○資料 75「第六次多摩市総合計画基本計画（原案）に関するパブリックコメント及び回答」に基づき、パブリックコメントの概要と対応結果について事務局より説明。

○資料 76「第六次多摩市総合計画（Ⅰはじめに）（Ⅱ基本構想）（Ⅲ基本計画（原案）」に基づき、修正点を事務局より説明。

会長 質問、意見があればご発言いただきたい。

委員 感想になるが、パブリックコメントへの対応について、特に教育部分ではわかりやすく、どなたにも納得できる形でまとめていただき、大変ありがたい。

会長 他に意見がなければ次に移りたい。

## 【3 その他】

事務局 昨年 7 月から約 1 年 4 か月、19 回実施した審議会は本日で最後となるため、各委員よりご感想をいただきたい。

委員 総合計画審議会の仕事がかれほど緻密で多方面から議論を重ねられていることに、審議会委員として参加して改めて実感した。一市民としては、暮らしやすい素晴らしい市であると思っていたが、自分が見えていない部分や関心を持ってこなかった部分においても専門家や地域の取組みをされている方の意見をお伺いして、改めて多摩市の魅力とこれからの責任を認識した。多摩市の個性をどう表現していくかということが、まち全体の活性化や生きがいにつながると思うので、掘り起こし、言語化してイメージを共有してより良い市になっていくよう、一市民としての働きをしていきたいと改めて感じた。皆さんの様々な働きに感謝する。

委員 第四次総合計画において、市民自治が重要なテーマであり、サービスを受ける市民から参加する市民への変化が求められた。第五次総合計画では、あらゆる分野で多様性を共有するまちが求められた。今回の第六次総合計画では、「持続可能」が求められている。家族、まち、地球の持続可能が求められている。市民自治・多様性・持続可能なまちの 3 つはまだ完成されていない。今後、一つ一つステップを踏み重ねていくということが、まさに民主主義そのものです。今回の審議会に皆さんと時間を共有して第六次総合計画を策定できたことに感謝し、誇りに思っている。

これまで 3 つの総合計画に関わったが、今回、分野別計画が 80 個近くあるという現

実を目の当たりにした。今回の総合計画では分野別計画それぞれを関連づけて整理し、体系化しているため、わかりやすいものとなった。事務局の皆さんの尽力に感謝したい。

委員 私は市民ではないが、30年近く大学に勤め、また農業委員をしていることから審議会に出させていただいた。都市農地の位置づけが、都市にはなくてはならないものに大きく変わってきている中で、多摩市は農地を潰して都市化してきた。50年経ったときに、その中で何が起きているのかという視点で、多摩市には非常に農地が少ないという特殊性を少しでも皆さんに分かっていただければと思う。

一方、環境危機や生物多様性について、公園や自然だけでなく、農地でもそういうものを守っていくという新しい視点が、今後個別計画等に反映されていくことを望みながら出させていただいていた。農業をめぐる環境は、化学肥料、農薬を使うことが当たり前という時代から、2006年に「有機農業の推進に関する法律」、一昨年の「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律」により、大きく農業政策が転換され、有機農地面積を25%、100万ヘクタールにすることとなった。農村だけでなく都市においても人々の意識を変えていく必要がある中で、都市住民にも農地の重要性を分かっていたくことの難しさを感じながらも、農業委員としての意見を少しでも反映させていただくことができれば私の任務が果たせたのかなと思う。いろいろと勉強させていただいた。

委員 私は福祉分野から委員として審議会に関わらせていただき、当初進み方がよく分からず戸惑ったこともあったが、皆さんの意見を聞いて、勉強の場となった。パブリックコメントを読んでも、市民の方々が多摩市の行政のあり方や進め方に、真剣に厳しく見ていることを改めて感じている。福祉もそうだが、すべての住民が「つながり 支え 認め合い いきいきと かがやけるまち 多摩」を受け入れるだけでなく、自分たちで福祉のまち、健幸的な笑顔のまちを作り上げていくという意識を持って共有できれば、地域づくり・まちづくりの原点になると思う。福祉ではいろいろな課題があるが、それを子どもから大人まで地域住民が参加し、どうしたら楽しい生活ができるか考えながら、一緒に多摩市のまちづくりを進めていけたらよいと思う。福祉に関わる人間としてその一翼を担えればいいかなと思う。勉強させていただき感謝する。

委員 議論のピークの時期に参加できない日もあり申し訳なく思う面もあるが、審議会は初めての経験で、議論に学ばせてもらうことが多くあった。いろいろな意見をまとめることは難しいが、私は具体的な活動からイメージすることが多いため、皆さんのすごく丁寧な言葉まわりの議論や多摩市らしさを大切にしていくことなど非常に学ぶことが多く感謝している。私は市外に住んでいるが、新しいイベントも始まる等いろいろと聞いているので、これからも多摩市へお伺いしたいと思う。

委員 総合計画を決めるという審議会に参加し、「誰もが住みやすい都市に」というのはどの都市でも掲げる目標だと思うが、それを誤解なく文章に落とし込むことは難しいと感じた約2年間であった。様々な方面からのいろいろな意見を毎回丁寧にすり合わせて完成したものとして、自信を持って、ある程度の裏付けを持って出せるものになったことはよかったと思う。私は仕事の都合などによりオンライン参加が主となったが、オンラインでも皆さんの意見をお伺いできて、スムーズに会議に参加でき感謝している。

委員 総合計画ということで、いろいろな視点から議論が飛び交い、私自身勉強になった。それらの意見が落とし込まれ、素晴らしい計画になったのではないかと。私は環境分野の関係で審議会に声をかけていただいたが、他自治体などでは環境分野はややもすると福祉や教育などの他分野より後回しにされることが多い中、多摩市では環境にかなり力を入れていただきうれしく思う。最後に、私はオンライン参加が多かったため、オンライン・オフラインのハイブリット環境に対応いただいた事務局に感謝したい。

委員 大変有意義な議論に参画させていただき感謝する。また、議論しやすい環境を整えていただいた事務局にも感謝している。

国の施策は縦割りが多く、自治体のレベルではそれを総合化して行うことが一つの役割だと思うが、例えば福祉とまちづくり、環境、コミュニティなどは関連しているので、事業の実施段階では、複数の施策が関連付けられるか、という視点で取り組んでいただきたい。

2点目として、「50代の暮らし方が60代の人生を左右する、60代の暮らし方が70代の人生を左右する」という話を聞く。総合計画によって今後10年間の道筋ができたが、50代の多摩市が60代にどのような多摩市になるか、10年より先も視野に入れ、時代に備える仕組みづくりも必要だと思われる。今、多摩市は施策も安定しているが、高齢化、人口減少、市街地の人口が薄まっていくような状況、地域振興やコミュニティの点でも、場合によっては次の10年間のほうが厳しい状況になると考えると、そこも視野に入れたアイデアを出しながら進めるとよいのではないかと。

最後に、市職員が勤務中に外に出るのは難しい面もあると思うが、例えば休日のまち歩きを企画する、まちでのインタビューを行うなど、多摩市をよく知っていただく経験は有意義であると思う。審議会にはNPO関係の団体の方も多くいらっしゃるもので、直接現場で話を伺うこともよいと思う。また、将来に向けたいろいろな仕組みづくりを模索している自治体はたくさんあるので、連携、情報交換をしながら、どのような施策が有効であるかについても検討していくことも有意義であると思う。以上、感想とさせていただきます。

委員 私はこの審議会に市民代表、環境に関するNGO代表として参加させていただいた。また職場でも環境部門に所属している。私が環境に関わるきっかけは幼少期の経験である。私の地元では周りに自然があふれていたが、小学生の頃、大開発で環境が壊されていくことによりかなりショックを受けた。その記憶が鮮明に残っており、その後環境に関する市民活動に参加し、その経験が仕事にも生かされ、その流れでこの場にも参加させていただいている。多摩市の昔の姿の記憶が少しある。「平成狸合戦ぽんぽこ」では、自分の幼少期の体験が映画化されたと感じた。

多摩市は総合計画の中でも環境について熱心で、10年、20年前では考えられなかった施策でも、私の発言を未来の計画に盛り込んでいただいているところに、感慨深く感じている。

いろいろな分野で言えることだが10年、20年前の常識は10年後には様変わりしている。ダイバーシティ、インクルーシブ、あるいは環境でいうとカーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャーポジティブなどは、20年、30年前にはなかった

ものである。時代が進み、より良いものにしていこうという考えが世界をつくっていく。多摩市でも一人一人の市民の意見を文書化することで方向性が見えてきて、それが時代、社会、地球環境をデザインしていくと思うと、とても有意義な会に参加させていただいたことに感謝している。

委員 短いようで長かった1年4か月を、皆さんと審議できたことに感謝している。一市民として、また多摩市若者会議のメンバーの一人として、それを運営する地域活動を行っている合同会社 MichiLab の一人として、ここで得た会話や内容を持ち帰り、有効に活用させていただいているという実感がある。私は多摩市に愛着を持ち、すぐ行動するタイプだが、その一方で計画策定という仕組みづくりにも関与できたことはよい経験となり、今後につながると思っている。計画では難しく書かれているところもあると感じるが、私の役割は施策等を市民側として推進することだと考える。興味・関心がない市民にも、それぞれの条例や計画は意思や思いがあってできていることが、具体的な行動として現れるよう、今後動いていきたい。

委員 私も市民委員として、子どもと文化に関わる NPO の一員として参加した。議論してきた中でいくつかの意見を反映していただきありがたく思う。専門の皆さんから意見をお聞きし、学びになった。計画策定に関わったものとして、一市民として、皆さんにお知らせし、共に学んでいければと思っている。先日、広報で、子どもの見守りについての記事があったが、多摩市で子どもが安心して暮らせる地域をつくろうという気持ちが出てくることが、とてもよい市だと感じた。そこを皆でもっと盛り上げ、より暮らしやすいまちをつくっていきたい。

委員 このような機会を与您いただき感謝する。私は多摩市に住み、働いているが、今回初めて多摩市全体のアウトラインを見ることができ、私にとって大きな意味があった。また皆さんと練った言葉の一つ一つは、言霊という言葉があるが、ここに込められた意味は私自身もとてもよく理解できた。10年後にこの計画どおりにいったか、一市民として総括してみたいと思う。10年経つと社会は本当に大きく変わっていると思われる。例えば、外国人との共生について今話されているが、そのころにはロボットや AI との共生をどう考えるか、多摩市はどうするのか求められるなど、変化があるのだと想像している。それも楽しみにしながら、全力で作り上げたこの計画が、市民にとっても日本全体にとってもいい影響を及ぼすようなものになるとよいと思う。

副会長 充実した時間であったと振り返っている。こうした計画書づくりにはこれまでも関わってきたが、それに比べてもわがまち多摩での計画作りは一番密度が濃く、作業量も多く、高度であったと思う。その理由は、個別計画、個別の施策、しかもそこに重点テーマの形で横串を刺しながら非常に整合的なものを作ったことである。国のこのような計画はあまり整合性がとられず、トップダウンで作られるので好きなことができたりする。今回は都市計画、環境、行政というそれぞれの立場で、住民自治・市民自治にこだわりを持って関わってこられた方たちの蓄積と自負の反映なのだと感じた。既存の議論の蓄積をゆるがせにしないで、それをまとめ上げようという誠実さはやはりすごいと思った。だからこそ、普通では無理な月3回という、しかも夏の時期に行われた審議会、1回休むとついていけなくなるという、なかなか経験したことのないスケジュールであり、密

度の濃い会議であった。結果として、まちのにぎわい・活力、福祉、健幸まちづくり、環境・持続可能性を連携させた形で、かつ整合性と横串を刺すという、不可能と思われることを最終的にはこのような形でまとめ上げられた。それに関しては、各委員から都市計画、DX、子育て、環境、教育等の専門分野において、学ばせていただくような的確な発言があった結果である。それから会長の采配、おそらくこの作業量に、難しく感じることもあったと思うが、ふわっとにこやかな雰囲気はずっとキープされてきた力量とセンス。また、事務局の奮闘もある。非常によく施策に通じている方がいて、それでいて委員の皆さんのご意見を誠実に吸収しようとしてこられた。自分が暮らしているところでいろいろな人と知り合えることも良かったと思っている。

会長 進行に不慣れなところもあり、ご迷惑をおかけしたこともあった。議論の枠組みをどうするかというところから始まり、議論の時間が足りないこともあったが、温かくご協力いただいてありがたく思う。

私が初めに総合計画に関わったのは大学院生の時で、その時はどこのまちでも同じようにきれいごとが書かれているという印象を受けたが、てにをは、言葉の選び方にも思いが込められているということを経々と学んだ。今回は密度が濃いとおっしゃられていたが、そのとおりだと感じる。委員それぞれの専門分野がいろいろなところと関連していき、触発されてどんどん意見が出てくるという印象を持った。そういった議論ができたことはよかったと思う。例えば持続可能性といった課題はつながっているし、つなげていけないといけないというところがある。今回、横串の連携を明確に位置づける提案をいただき、それが本当によかったと感じている。横串についてはコミュニティのところなどでかなり前から言われてきたが、それを計画に落とし込み、絵だけではなく実際にやっていく技術はかなり大変だと考える。総合計画とEBPMについて書く機会があったため改めて調べたところ、総合計画はもともと公共施設など、国のいろいろな施設の配置、お金の配り方のためのもので、都道府県、市町村でもやることになっていった。もともとはトップダウンの計画であったものが、自治、まちづくり、コミュニティと、数十年かけて計画の質が変わってきた。

もう一つ今回特徴だと思ったことが「変わる」ことである。世の中や課題がどんどん変わるので、総合計画のもとで一斉に取り組むだけでは持たなくなっている。個別計画では、総合計画では想定していなかったことには個別計画を反映させるというインタラクティブな運営が必要になると感じた。委員から「計画は可変である」というニュアンスの意見があったことも画期的な計画になったのではないか。

他に、都市の政策を考えていくときの例として、2019年にOECDから出ているアーバンポリシーを進めるためのツールキットが2022年に出ている。そこでは13ほどの目標の中に「連携」という言葉が何度も出てきている。もともとヨーロッパでは持続可能性に関して「連携」がキーワードになっていたが、「連携」は都市政策に関して本当に課題なのだ実感した。それをどうやって実現するかについては、計画、評価・モニタリング、と記載されている。違うカルチャー、バックグラウンド、フィールドでの活動を連携していくためには、コミュニケーションのための情報基盤が重視されているのだと感じた。ここでも指標が重視されているが、他の計画や他の部署とのコミュニケーション

ンツールのような評価みたいなものになっていくといいと思う。

また、今回、パブリックコメントが少なかったことに関して、計画が増え行政は大変だと思うが、行政のために市民が集まれる機会は増えていると思う。もともと地域活動が活発な基盤がある多摩市では、意見数は少なくとも、潜在的にはいろいろな場で行政とつながっている団体や活動は確実に増えている。パブコメという制度自体がどうなのかなというところもある。実質的な成熟を見ていくことを考えると前向きになれる。いろいろと勉強させていただき、感謝している。

市長

1年半近くにわたって、多摩市の総合計画策定にあたり、真夏の暑い時期に月3回も審議するなど本当に大変であったと思うが、改めて感謝申し上げる。なおかつ朝日会長からも話があったが、「太陽と緑に映える都市」という将来都市像は知っていても、総合計画の中身がどうだったかは市長になるまで知らなかった。市長になって総合計画の大切さ・必要性を認識した。部門別の計画はいろいろあるが、総合的にこの先長期に渡ってどのようなまちづくりをしていくか、憲法のようなものを定めていることになる。一方で、市民は分野別計画への関心は高いが、総合計画になると説明会にほとんど人が来られない。だけど本当は大事な計画である。逆に言うと、審議会の場できちんと議論していただいた意見に加え、庁内の専門委員会があり、事務局は板挟みになりその調整を行っている。10年先の未来の見通し、特に地球の問題、DX、まちづくりの進め方、担い手不足、SDGsなどの計画の前提をどう議論していくのか。ただ10年は非常に短く、改めて読みなおすと「地球温暖化、気候変動」としているが、今年の夏国連のグテーレス事務総長が言っていたように今は「地球沸騰化」の時代である。多摩市でも「気候市民会議」を開催し、35度以上の日々が続く中でこれから先どうするのか、中高生が中心となっていていろいろと具体的な提案をいただいた。部門別計画でも、市民がシビックプライドを持ち、まちを愛し、将来のまちに向けて動き出している。ただ、表現は気候変動一つとっても、1年前と今では感覚が異なっているため、具体化していかなければならない。10年持たないかもしれないという危機意識を燃やして皆様に委嘱したわけであるが、1年半前より厳しい状況である。ただ中高生を含めた若い人たちにとっては、厳しくも楽しい未来であり、例えばCO2削減、技術革新を進めるといった思いを感じた。楽しくいきいきと進めることで地球温暖化も阻止していく。「つながり支え認め合い いきいきとかがやけるまち 多摩」という言葉に、庁内の活発な議論、市民の意見など凝縮された思いがある。これはいろいろなところで議論されている課題を結集したものであり、総合計画を未来に進めていくうえで、この議論がとても大切なものであることを考えると、先ほどお話を伺い、改めて素晴らしい委員に恵まれたと思っている。海外で起きていることを含め、グローバルに、わが多摩市が遅れているわけではなく、先進的な取組みも多く実施しており、先人が輝かしてきたまちでもあり、多摩ニュータウンを抱える多摩市は捨てたものではない。このまち全体が未来に残る世界遺産として登録してもよいと思うほど私は誇りに思っている。パレスチナとイスラエルの戦争の現状のように、未来を生きる子どもたちが、お互いに傷つけ合わないように、民主主義の学校といわれる地方自治体において、しっかり議論しながら声をしっかり受け止め、反映し、市民一人一人がいきいきと生きられる、そんなまちに是非していきたい。平和、人権といっ

たことを強く出していくべきである。あるいは地域コミュニティでは顔が見える関係を大切にしていけるべきである。いろいろなことがあったうえでの答申である。すでに9月議会で特別委員会が開かれ、全会一致で議決いただいた。これをベースに来年度以降の計画をやり抜くことは我々大人の使命だと思っている。今後も、市の活動をチェックし続けていきたい。

事務局 現段階での総合計画を本日お示ししたが、11月6日に全部課長で構成される庁内の委員会にて最終決定を行う予定である。第六次に切り替わり、進んでいくという形になる。ある程度デザインし製本した冊子をお送りの予定である。

会長 以上で第10回審議会を閉会する。

【閉会】

以上